講談「日向御前国姫物語」を視聴して

的馬真妃流

私は丸岡高校に通っており丸岡城の前もよく通りますが、日向御前国姫の話は初めて聞きました。徳川家康のひ孫であり織田信長のひ孫でもあり本多忠勝のひ孫でもあるという冒頭部分で、なんて血筋の濃い方なんだと驚きました。こんなに有名な戦国武将に可愛がられていた人はどんな人なのだろうと話に惹きつけられました。日本史で学んだことのある話も入っていましたが、私の知らない詳しい話が入っていて勉強にも良いと感じました。日向御前国姫は十歳で嫁いだと聞き、今では考えられないことですので少し驚きました。さらにその4年後に離縁したというのもまた波乱万丈だと感じました。途中で音楽や舞台に上る人も出てきて、眠くならないなと見ていて感じました。その後から話し始めた日向御前国姫の話でいきなり7人の若者が出てきて面白かったです。そこからいきなり恋の話が始まり、波乱万丈とはこういうことかと理解が追いつきました。そしてすぐに15歳で25歳に嫁ぎ、年の差の大きさにまた驚きました。現代では十歳離れるとかなりの年の差だと言われることが多いと思います。私もそう思うことがないとは言えません。徳川家康は嫁がせたくなくても大切な孫の思いを汲み取り不釣り合いな婚姻を結ばせたと聞き、血も涙もない戦国武将にも優しい一面があったんだと知ることができました。その婚姻から5年も苦しい日々を送ったという日向御前国姫は間違いなく波乱万丈だと感じました。話の中で、周りの環境の変化や、制度の変化、様々な変化があった中で強く前向きに生きた日向御前国姫の生き方はかっこいいと私は思いました。現代では考えつかないほど大変で波乱万丈な人生ではありましたが、それでも前を向く日向御前国姫の話を聞いて私は勇気を分けてもらうことができました。私もこれから受験や卒業など、環境の変化や苦しいことが増えていきますが、この話でもらった勇気を励みに頑張っていきたいと思います。